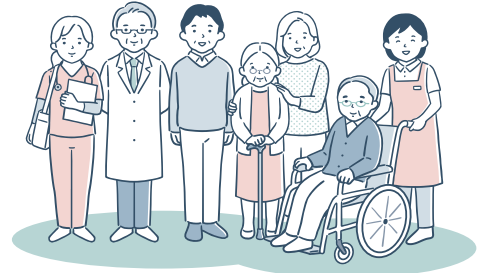


在宅ケアとは？

病気やケガによる障害から生活が困難となった人が、住み慣れた地域において、その人らしく安心して暮らせるよう家族も含め、保健・医療・福祉・介護・予防・就労・教育・住まい等の専門職などが連携し、複合的にケアすること



<在宅>自宅、高齢者向け住宅など
<ケア>お世話、配慮、気配りなど



在宅ケアの必要性

医療機関での患者の増加

- ・生活習慣病の増加
- ・高度医療の普及 (検査・治療)



患者さん側のニーズ

- ・「治す治療」から「支える治療」へ

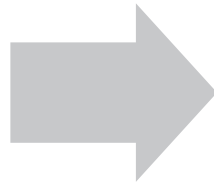


医療の変化

- ・超高齢化社会への移行 (社会保障費・医療費の圧迫)
- ・在院日数の短縮

しかし… 家族の変化

- 核家族化
- 家族の扶養に対する意識の変化
- 家族とのつながりがうすい
- 家族はいるが遠方で生活している、など



- 療養者を支える基盤の弱体化
- 家族による介護力の低下



そこで、家族に代わる人(専門職)が支援

保健師

訪問看護師

作業療法士

言語聴覚士

介護福祉士

ホームヘルパー

理学療法士

ケアマネジャー

社会福祉士

医師

歯科医師

薬剤師

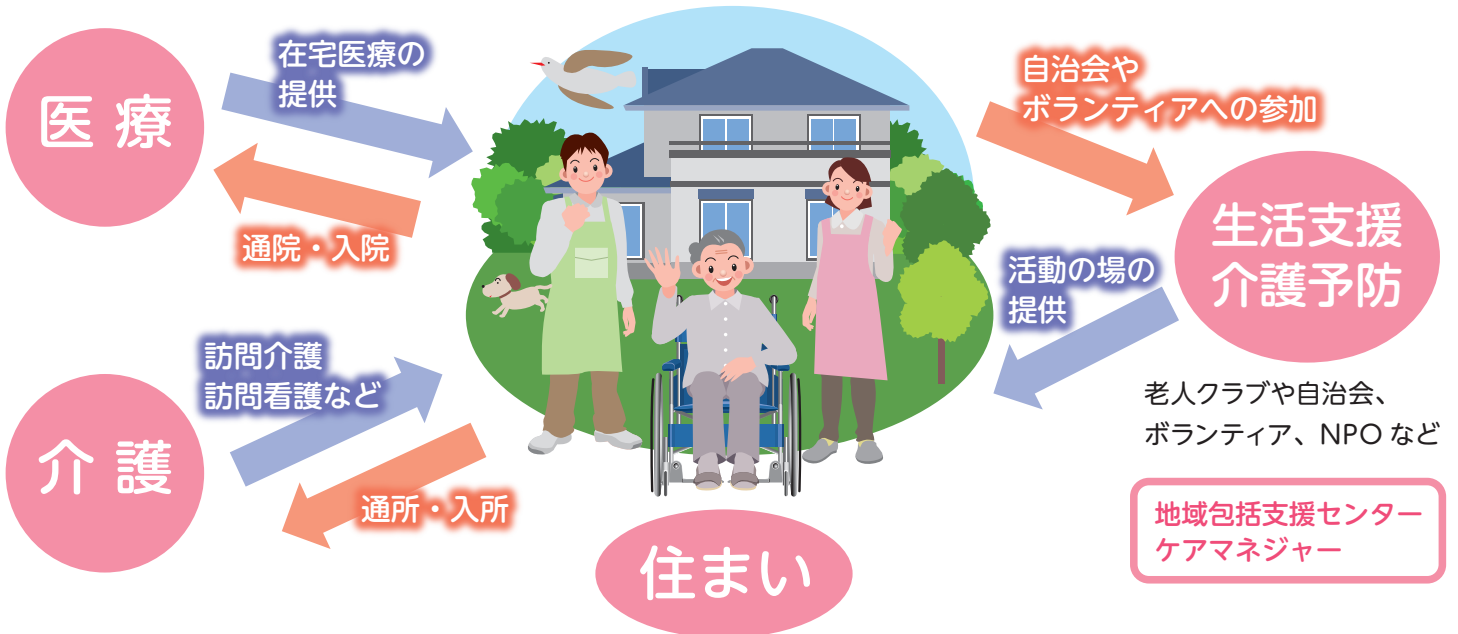
民生委員

各専門職者間の連携(多職種連携)による包括的なケアシステムの構築が重要！



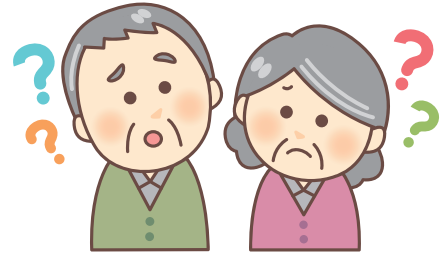
地域包括ケアシステム

多くの人が自宅等住み慣れた環境での療養を望んでいることから、できる限り住み慣れた地域で安心して自分らしい生活が実現できる社会を目指す必要があります。



在宅ケアの問題点

- 多職種連携がとりにくい
- 老々介護、家族の協力が得られない
- 急変時の不安 (365日、24時間の安心)
- 地域におけるケア・サービス提供機関の確保と質の保障
- いきがいづくり



訪問看護・リハビリ・研究・教育の循環により地域を支える

津軽地域に暮らす人々が健康で生き生きとした生活が営めるよう、地域、人、生活活動の特性を分析し、融合した学問体系を基盤とし、多様なニーズを捉えた新たな知識の蓄積と新しい技術やシステムの開発が重要！

在宅ケア研究所では、在宅ケア研究所附属訪問看護リハビリテーションステーションそら、弘前医療福祉大学保健学部、短期大学部、大学院地域健康支援学研究科（2024年4月開設）と協力・連携し、地域の人々の健康に貢献します。

